

エコアクション2.1

環境経営レポート



2021年度版（対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日）

北海道スバル株式会社

2022年11月1日発行

【目次】

	ページ
【1】 組織の概要	2
【2】 対象範囲及び適用事業所一覧	3
【3】 EA21 推進組織図及び EMS 推進責任権限表	4
【4】 環境経営方針	5
【5】 2021 年度取り組み目標	6
【6】 2021 年度環境活動の実績と評価	9
【7】 環境関連法規及び違反・訴訟の有無	10
【8】 2022 年度の環境活動の目標	11
【9】 代表者の総括	16

【1】組織の概要

1. 北海道スバル株式会社の概要

会社名 : 北海道スバル株式会社

所在地 : 〒063-0062 北海道札幌市西区西町南 14 丁目 1 番 1 号

代表者 : 代表取締役社長 中村 亜人

担当者 : 環境管理責任者 管理本部長 西山 真喜夫

: 環境管理副責任者 総務部長 品野 貴雄

: E A 2 1 推進事務局担当 総務部人事課 佐藤 智也

監査室 中田 圭一

連絡先 : TEL 011-668-2122 / FAX 011-664-5602

U R L : <http://www.hokkaido-subaru.com/>

- 事業内容
1. 自動車、自動車関連部品及び付属品並びにそれらの関連物品の販売、修理、加工
 2. 自動車のリース及びレンタル業
 3. 中古自動車の売買及び修理
 4. 油脂類の販売
 5. 電気製品、各種レジャー用品、事務機器、衣料品、文具及び雑貨等の各種物品の販売
 6. 損害保険代理業及び自動車損害賠償責任保険代理業並びに生命保険募集業
 7. 農業協同組合法（昭和22年法律第132号）に基づく共済代理店業
 8. 不動産の賃貸及び管理
 9. 前各号に附帯又は関連する一切の事業

事業規模

① 年間売上高（2021年度）	15,674,481千円
② 新車販売台数（2021年度）	2,892台
③ 中古車販売台数（2021年度）	2,664台
④ 従業員数（2022年3月現在）	480名
⑤ 店舗数	
・新車店舗	19店
・中古車店舗（専売店舗3）	7店
・钣金塗装（BP）工場	3店
・部品センター・納整センター	2店
合計	31店

【2】対象範囲及び適用事業所一覧

1. 対象範囲

- ・ 新車及び中古車の販売
- ・ 自動車の点検、整備、钣金塗装
- ・ 自動車部品、用品の販売
- ・ 損害保険代理店業務

2. 適用事業所一覧

	事業所名	住 所	電話番号	従業員数	組織区分
1	本社 (2を除く)	札幌市西区西町南 14 丁目 1 番 1 号	011-668-2111	54	A
2	札幌西店 B Pセンター本社	札幌市西区西町南 14 丁目 1 番 1 号	011-668-2210	49	E
3	羊ヶ丘通清田店 部品センター カースポット羊ヶ丘通	札幌市清田区真栄 58 番 1	011-699-7180 011-699-7180 011-376-0170	37	C+ F
4	厚別店	札幌市厚別区厚別東 5 条 8 丁目 6 番 6 号	011-898-7171	17	C
5	カースポット厚別	札幌市厚別区厚別東 5 条 7 丁目 1 番 25 号	011-898-5775	3	B
6	札幌東店	札幌市東区東苗穂 4 条 3 丁目 2 番 92 号	011-783-5111	14	C
7	新千歳店 カースポット新千歳 新千歳 P D I	千歳市北信濃 782 番 2	0123-25-8521 0123-25-8531	26	C
8	白石店・法人営業課 B Pセンター白石	札幌市白石区中央 1 条 1 丁目 1 番 25 号	011-818-3755 011-818-3755	31	E
9	月寒店	札幌市豊平区月寒中央通 11 丁目 1 番 10 号	011-852-4125	18	C
10	札幌北店	札幌市東区北 35 条東 1 丁目 5 番 1 号	011-721-5040	23	C
11	札幌南店	札幌市中央区南 30 条西 10 丁目 2 番 22 号	011-211-5516	17	C
12	小樽店	小樽市入船 2 丁目 1 番 3 号	0134-29-1565	14	C
13	岩見沢店	岩見沢市大和 2 条 7 丁目 6 番地	0126-22-0526	14	C
14	G - P A R K 札幌	札幌市西区西町北 15 丁目 1 番 15 号	011-669-4555	8	B
15	室蘭店	室蘭市寿町 3 丁目 20 番 4 号	0143-44-5111	18	C
16	苫小牧店 カースポット苫小牧	苫小牧市明野新町 2 丁目 2 番 12 号	0144-55-4572 0144-51-2600	22	C
17	函館北浜店 B Pセンター北浜 カースポット北浜	函館市北浜町 4 番 20 号	0138-40-1010 0138-40-1116 0138-40-2600	24	E
18	函館神山店	函館市中道 2 丁目 53 番 7 号	0138-53-6894	13	C
19	旭川北彩都店	旭川市宮前 1 条 2 丁目 5 番 5 号	0166-76-1955	30	C
20	名寄店	名寄市字徳田 114 番地 27	01654-2-2493	9	C
21	北見店	北見市小泉 426 番地 4	0157-24-8911	18	C
22	滝川店	滝川市黄金町東 3 丁目 2 番 4 号	0125-24-6171	10	C
23	G - P A R K 旭川	旭川市永山 2 条 12 丁目 1 番 16 号	0166-40-0000	11	C

注)

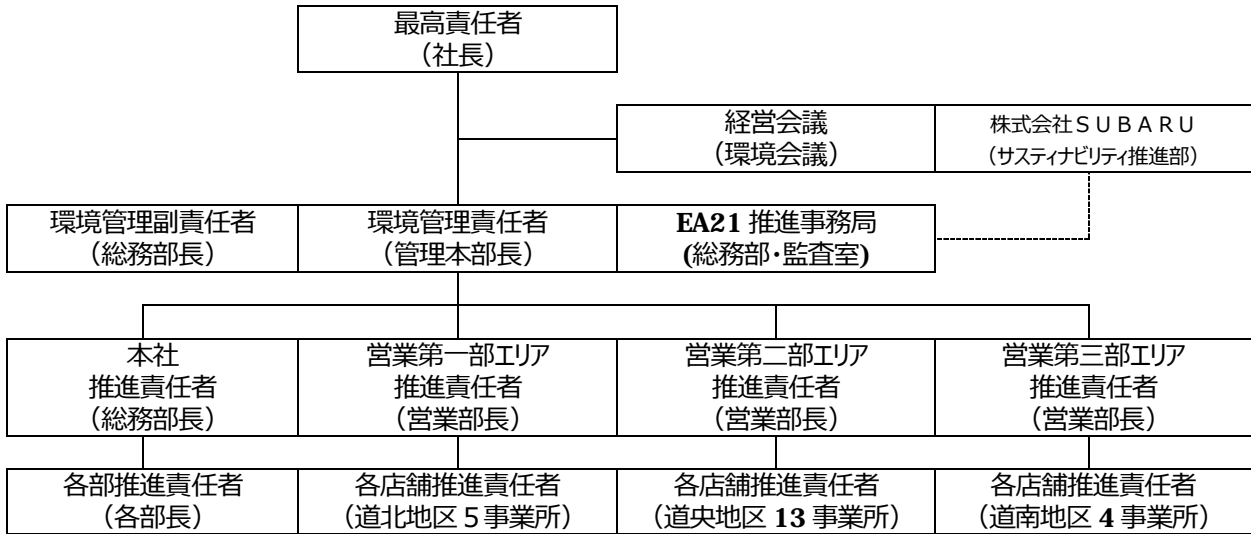
1. 組織区分の意味

- A = オフィス業務 (事務所業務)
- B = オフィス業務 + 自動車販売 (新車、中古車)
- C = オフィス業務 + 自動車販売 (新車、中古車) + 整備業務
- D = オフィス業務 + 自動車販売 (新車、中古車) + 钣金塗装業務
- E = オフィス業務 + 自動車販売 (新車、中古車) + 整備業務 + 钣金塗装業務
- F = オフィス業務 + 物流販売業務

2. 従業員数は 2022 年 3 月 31 日現在

【3】 E A 2 1 推進組織図及び E M S 推進責任権限表

● EA21 推進組織図



● E M S 推進責任権限表

担当者	役割・責任及び権限
最高責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境方針を定める。また必要に応じ見直す ・E M Sの見直し（マネジメントレビュー）を行う ・要員（人材）、設備、資金等の資源を経営上対応可能な範囲で用意する ・環境管理責任者を任命する
環境管理責任者 環境管理副責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・本業の業務とは関わりなく、E M Sを確立・実施・維持する責任と権限を有する ・環境方針に沿って全社環境目標（中期と当該年度）を策定する ・「環境関連法規制等一覧表」を作成し、最新状態を維持する ・環境マニュアル、手順書、帳票等の文書を維持管理する ・緊急事態の訓練を計画し、実施する（部門の実施を推進する） ・環境に関する行政機関対応の責任者（法規制対応も含む） ・マネジメントレビューの報告情報を取り纏め報告する
E A 2 1 推進事務局 ※「事務局」と呼称・表記する。	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者を補佐し、E M Sの確立・実施・維持全般に関する事務局業務を行う ・環境マニュアル・手順書・帳票等の見直し、最新版管理 ・各部門との調整、情報の伝達 ・全社 E M Sの進捗管理、審査対応窓口（外部との調整を含む） ・マネジメントレビューの情報収集・整理 ・E M Sの推進にかかわる内部外部との連絡窓口
各エリア推進責任者 ※「エリア責任者」と呼称・表記する。	<ul style="list-style-type: none"> ・各エリア（EA21の1～3エリア）内部を統率し環境活動を指揮する
各部・各店舗推進責任者 ※「推進責任者」と呼称・表記する。	<ul style="list-style-type: none"> ・各部・各店舗の環境活動を推進する
一般従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境活動の重要性を自覚し、必要な環境教育訓練を受け、環境方針・環境目標・環境活動実施計画書に基づいて、日常の環境活動に取り組む
内部監査員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの有効性や、環境活動が適正に運用されているかを検証する

【4】環境経営方針

《基本理念》

私たちの住むまちは、雄大な北海道の自然豊かな環境にあり次世代まで続くよう車両や関連部品の販売、車両整備等の事業活動を行い、環境保全に貢献するとともに地球環境負荷の低減に積極的に取り組めます。

《基本方針》

この理念のもと、当社が行う事業活動が環境に与える影響を考慮し、以下の環境保全活動を推進し、継続的改善を図ります。

1. 我々が関わる自動車産業は、環境への負荷が大きいとの認識に立ち、本業にリンクした具体的な環境活動として、アイサイト装着車販売、エコカー販売、車検カバー率、点検在庫率、エコタイヤ販売、などを推進します。
2. 店舗の建て替えやリニューアルも積極的に行い、お客様が来店しやすい環境づくり、従業員が働きやすい店舗づくりを行うと同時に、環境配慮商品とサービスの充実を通じて、経営理念「安心と愉しさを社会に提供する」の実現を目指します。
3. 行政、ステークホルダー等からの環境関連の法規制・規則・協定などを順守します。
4. 廃棄物の削減及びリサイクルを促進し、省資源・省エネルギー化を図り、またそれら環境に配慮した事業活動に取り組むことで地球温暖化、資源枯渇、環境汚染の低減及び環境保護に努めます。
5. 当社の事業活動を継続する上で、発生しうる納期遅延・クレームに起因するエネルギーロスの削減を推進します。
6. 全従業員に対し、この環境経営方針を周知し、環境意識向上のため、啓蒙活動を継続的に行います。

2021年9月1日
北海道スバル株式会社
代表取締役社長 中村 亜人

【5】2021年度の環境活動の目標

1. 環境経営方針に沿った取り組みを実施する。

環境経営方針の各項目の具体的な取り組みは以下の通りです。

(1) 我々が関わる自動車産業は、環境への負荷が大きいとの認識に立ち、本業にリンクした具体的な環境活動として、アイサイト装着車販売、エコカー販売、車検カバー率、点検入庫率、エコタイヤ販売、などを推進します。

・アイサイト装着車の販売促進

SUBARUの価値である「安心とゆしさ」をお客様に提供するために、事故の低減が期待できるアイサイト及びアイサイトに準じる装備が装着された車両の販売比率を前年度より向上させることで、事故が減少し、事故に伴う部品、钣金修理に伴う各種エネルギー使用量及び産業廃棄物の削減を図り、環境負荷低減を目指します。

・エコカーの販売促進

CO₂削減が期待できるハイブリッド車両の販売比率を前年度より増やし、環境負荷低減に貢献します。

・点検パック※100%入庫となるよう取り組む

お客様へより安心したカーライフを提供するために、点検パックを購入いただいたお客様の車両を点検することで、車両のコンディションが向上し、排出されるCO₂も適正化されることが期待できる。全数を目指すことでより環境負荷低減に貢献することを目指します。

※点検パックとは、6か月ごとのセーフティチェックや法定12か月点検、車検整備代金（コースによる）、OIL交換などをお得な料金でセットにしたパックのことを指します。

(2) 店舗の建て替えやリニューアルも積極的に行い、お客様が来店しやすい環境づくり、従業員が働きやすい店舗づくりを行うと同時に、環境配慮商品とサービスの充実を通じて、経営理念「安心とゆしさを社会に提供する」の実現を目指します。

・店舗リニューアル

従業員の動線が長く非効率な店舗のレイアウトなどの見直しを行い、作業効率を改善に繋げ、働きやすく、お客様が来店しやすい環境を構築します。

・EV車両関連の設備投資

EV車両の販売を見据え弊社内に充電スタンドなどの設備投資を計画しております。

(3) 行政、ステークホルダー等からの環境関連の法規制・規則・協定などを順守します。

・環境関連法規の遵守

対象となる法律は引き続き遵守します。また新たな法律が制定実施されていないかについての確認も引き続き継続します。

(4) 廃棄物の削減及びリサイクルを促進し、省資源・省エネルギー化を図り、またそれら環境に配慮した事業活動に取り組むことで地球温暖化、資源枯渇、環境汚染の低減及び環境保護に努めます。

・ガソリン使用量の削減

社内の会議をWEB化することで該当社員の移動にかかる燃料と時間の削減を図ります。事業活動以外のガソリンをより正に排除することで使用量の適正化を図ることと、来店型店舗の構築を目指すことで、ガソリンの消費量の前年度より削減を目指します。

・電気使用量の見える化

電気使用量がパソコン上で見れる装置の設置を計画しております。最大需要電力の適正化を目指し電気使用量の削減を目指します。

(5) 当社の事業活動を継続する上で、発生しうる納期遅延・クレームに起因するエネルギーロスの削減を推進します。

・再整備の防止

正確な故障診断、見積の精度を上げる事により効率の向上に繋がるためメーカーおよび社内での研修を通じ、スキルアップを図ります。

・構内事故の防止

構内事故の中で工場内の後退時に発生しやすいので、2人体制で後退することの徹底を行い事故を未然に防ぎます。

(6) 全従業員に対し、この環境経営方針を周知し、環境意識向上のため、啓蒙活動を継続的にを行います。

・新しい方針を掲示し、環境管理責任者より、各エリア責任者各部・各店舗推進責任者を中心に会議やミーティングなどを通して啓蒙活動を継続的にを行います。

2. 数値目標を達成するための取組項目

- ① 電気使用量削減
- ② 燃料使用量削減
- ③ 水使用量削減
- ④ 廃棄物量削減
- ⑤ 紙使用量削減

3. 各店舗の独自の取組

事業計画を検討するタイミングで、各店舗毎にエコアクションに関連する独自の取組を決めています。

【6】2021年度環境活動の実績と評価

1. 全体的な数値実績 (2021年4月から2022年3月)

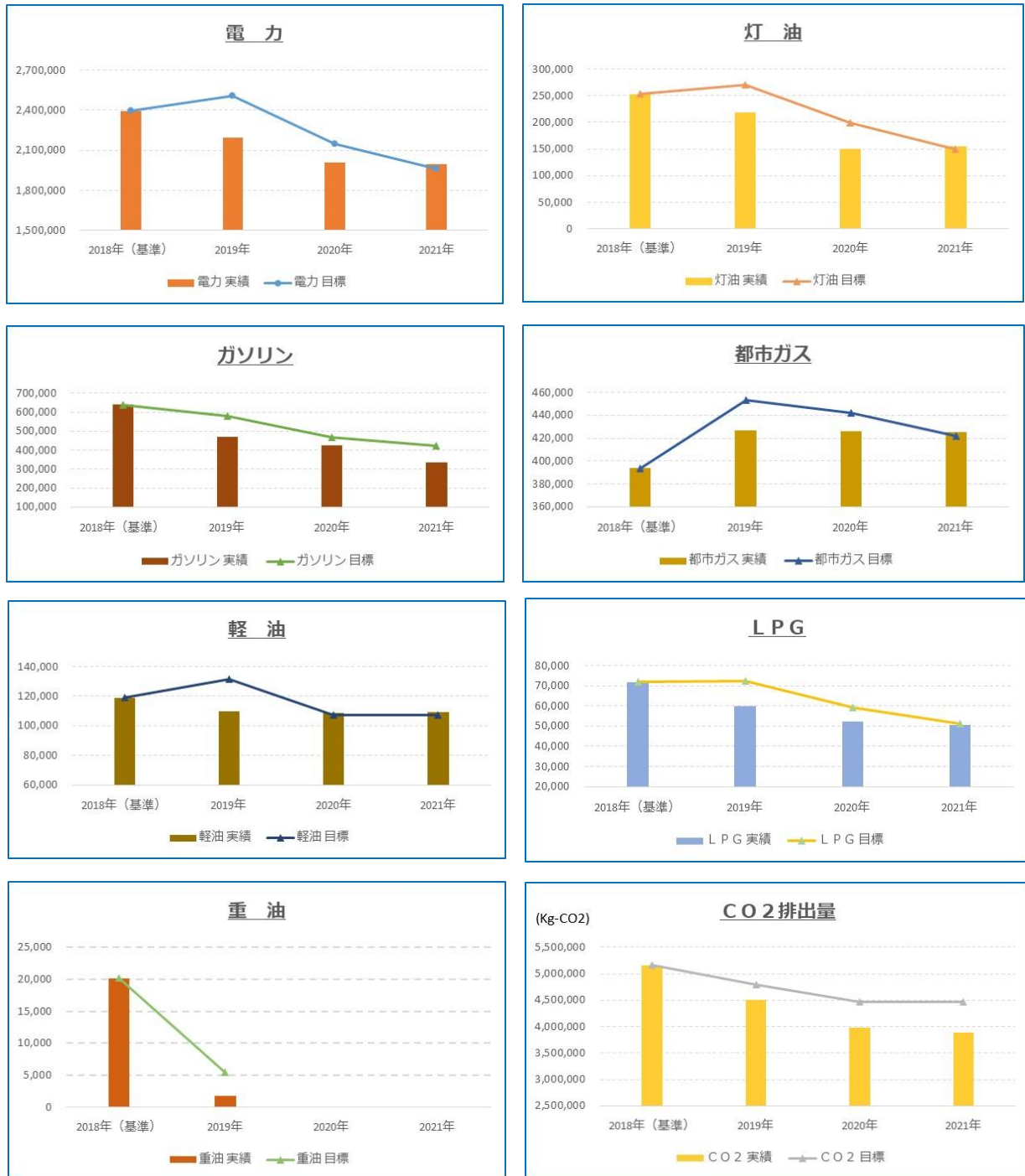
項目	単位	基準年度 (2018年度)	2021年度目標・実績				
			目標	年間目標	実績	削減目標 達成率	
電気使用量	kWh	2,351,686		1,964,002	1,995,586	98.4%	
燃料	ガソリン	L	517,912	前年度実績 対比1%減	421,897	334,971	126.0%
	灯油	L	253,218		149,498	154,524	96.7%
	軽油	L	118,998		107,380	109,406	98.1%
	LPG	kg	71,803		51,182	50,465	101.4%
	都市ガス	m ³	393,776		421,741	425,411	99.1%
水使用量	m ³	21,284		16,199	16,273	99.5%	
廃棄物排出量 (産廃及び一廃) ^{※2}	t	746		1,076	1,050	102.5%	
紙(北°紙)使用量	kg	18,764		18,141	18,212	99.6%	
二酸化炭素排出量 ^{※1}	Kg- CO2	4,565,326		4,468,865	3,878,856	115.2%	
環境関連法の遵守	各種環境法規制の遵守、必要な届出・報告の実施など			環境法規の規制基準遵守、必要な届出・報告の実施など			
社会貢献 環境保全活動の推進	会社敷地周辺及び道路の定期的な清掃を実施			会社敷地周辺及び道路の定期的な清掃を実施			
環境教育の実施	教育計画に基づく、社員への環境教育の実施			教育計画に基づく、社員への環境教育の実施			
環境配慮商品の 導入促進	事務用品の購入、OA機器・設備入替等の際は環境配慮商品の優先導入を検討する			事務用品の購入、OA機器・設備入替等の際は環境配慮商品の優先導入を検討する			
環境負荷低減の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> * アイサイト (スマートアシスト) 装着車の拡販 * ハイブリッド車(e-Boxer)の拡販 * 点検パック付保車の100%入庫 			<ul style="list-style-type: none"> * アイサイト (スマートアシスト) 装着車の拡販 * ハイブリッド車の拡販 * 点検パック車の100%入庫 			

※1 電気使用による二酸化炭素排出係数は0.656kg-CO2/kWh(北海道電力/2018年度)を使用

※2 廃棄物排出量は2019年実績より有価物の排出量も含む

1. 項目ごとの結果と評価（2019年～2021年度）

(1) エネルギー

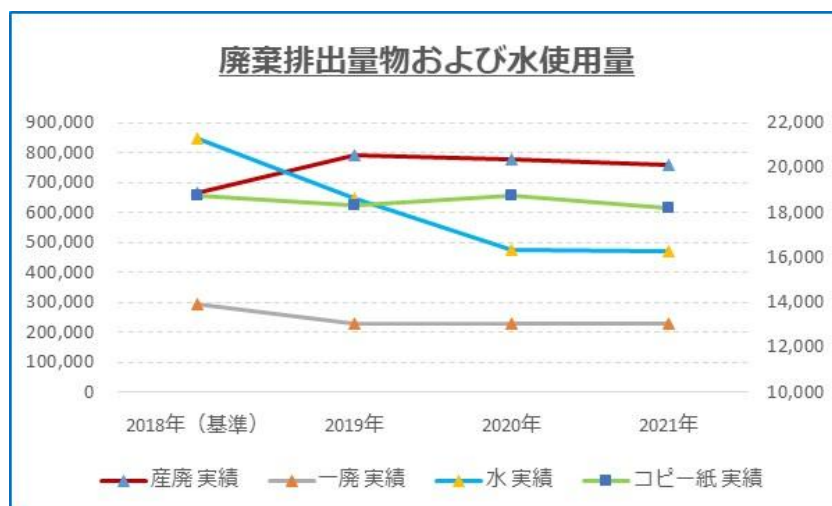


- ①2018年度を基準年とした2019年～2021年の3ヶ年の取組において、目標設定を2019年までは“サービス売上の前年対比以内”としていましたが、2020年以降は“（各種エネルギー使用量、廃棄物排出量など）前年実績の1%減”を目標に変更しております。
- ②これまでの「来店型店舗への転換」と「働き方改革」への取り組みに加え、新型コロナウイルス対応が重なった結果、電力をはじめとする各種エネルギー使用量が減少、これに伴いCO2排出量も削減（2018年度比85.0%）する結果になりました。
- ③「来店型店舗への転換」による取組により、営業活動に伴うガソリン使用量が減少致しました。お客様に店舗へご来店して頂くことにより、より効率的かつ丁寧にお客様と接触する事ができるようになりました。引き続き新型コロナウイルスの感染対策に注意しながら、お客様にとって安心してご来店頂ける、居心地の良い店舗作りを目指します。

- ④「働き方改革」の一環として営業時間の見直し、定休日の増加などの取組により、照明・空調に関連する電気使用量、都市ガス使用量の削減に繋がりました。今後も新型コロナウイルス感染防止の観点から効果的な換気をしながら空調をコントロールするよう努めます。
- ⑤プロパンガス(LPG)は、店舗の給湯設備やB Pセンターの塗装ブースでも使用しています。札幌南店が新築・移転に伴いLPGから都市ガスに転換した事もあり、**2020年**と比較し若干使用量を控える事ができました。また都市ガスは**2019年**より6店舗について「遠隔監視システム」を導入、使用量の削減に貢献しております。
- ⑥軽油は車両運搬用キャリアカーや除雪用ホイールローダー等の燃料として使用しており、年間を通してほぼ前年並の実績でした。これまでのB Pセンター～店舗間の車両輸送に加え**2021年**4月より中古車納整を新千歳PDIへ集約した事から、キャリアカーによる車両輸送は増えていくと思われます。交通安全に注意しながら効率的な輸送を心掛けて行きます。
- ⑦灯油は一部店舗のショールーム、サービス工場の暖房(ジェットヒーター含む)や洗車機、ロードヒーティング、B Pセンターの塗装ブースで使用しております。冬期間の気温、降雪量の影響を受けやすく**10月～12月**は昨年を下回って推移していたものの、**1月～3月**にかけて大雪もあり、昨年より増加する結果となっています。

(2) 水(投入量)、紙(コピー紙) 使用量および廃棄物

- ①水の投入量については、比較的大型店舗で前年より投入量が減少したことから全社の実績で前年を下回る結果となりました。また特定施設である「門型洗車機」を新型の機種と入れ替えた店舗もあり、これも節水に寄与している可能性があります。来店して頂いたお客様に喜んで頂けるよう洗車サービスを行うと共に、環境面やスタッフの労働環境も考慮しながら“無駄な洗車は控える”など今後もCSと業務の効率化にバランス良く取り組んでまいります。
- ②紙(コピー紙)は新車・中古車の注文書およびサービス作業指示書・売上明細書等で使用する**A4**サービスの領収書で使用する**A5**の2種類の使用量を把握しています。いずれも業務上、必要な紙ですがオンライン会議の定着に加え各店舗・部署でのミーティング、研修においてもペーパーレス化が進み**A4**用紙の使用量が削減されています。



3. 環境に関する主な取り組み

(ア) 環境関連法規の遵守

法令、法規制に対する違反はありませんでした。(次ページ【6】環境関連法規及び違反・訴訟の有無参照)

- (イ) 社会貢献環境保全活動の推進
毎年「交通安全人の波運動」に参加しており、今後も継続して行きます。また店舗周辺の清掃も継続して行ってまいります。
- (ウ) 環境教育の実施
例年通り、新入社員および中途入社社員の導入教育を実施し致しました。
- (エ) 業務効率化による環境負荷低減
これまで通りサービス部品部を中心にスバルアカデミーなどの各種教育及びチーフメカニックを対象とした会議の開催などにより技術の向上、情報の共有を図っています。これにより業務の効率化と共に再整備の防止にも繋がるものと思われまます。
- (オ) 内部監査の実施
2021年度は監査室による内部監査を全店舗実施。油脂類、廃バッテリーの保管状況など確認致しました。
- (カ) 設備の更新
白石店& B Pセンター白石には2021年12月より「電力見える化サービス(Enerviss)」を導入。アラーム機能をはじめ消費電力の確認が可能となっております。また2022年5月、全店舗にEV用充電設備の設置が完了致しました。

【7】環境関連法規及び違反・訴訟の有無

1. 適用される主な環境法規等

主な適用法規	要求事項
水質汚濁防止法	特定施設（自動車自動洗浄装置）の届出
下水道法	排水設備（油水分離槽）の設置、 特定施設（自動車自動洗浄装置）の届出、 水質検査（油水分離槽）の実施
騒音規制法	特定施設（コンプレッサー）の届出、規制基準の遵守
振動規制法	特定施設（コンプレッサー）の届出、規制基準の遵守
廃棄物処理法	保管基準、委託基準の遵守、許可業者への処理委託、 適正な委託契約の実施、マニフェストの適正運用管理、 マニフェスト交付状況の年度報告、排出事業者による 最終処分場の現地確認
消防法	貯蔵数量の遵守、定期の消防設備点検・報告、 防火管理者の選任、緊急事態対応訓練の実施
自動車リサイクル法	引取業者登録（更新）、使用済自動車の適正処理
北海道及び市町村環境保全条例	騒音・振動に係る特定施設の届出（上乗せ基準）、 事故（発生時）の届出等
フロン排出抑制法	業務用エアコン等の点検

2. 違反、訴訟等の有無

当社における環境関連法規への違反はありません。
また、関係当局からの重大な違反等の指摘は、過去3年間ありません。

【8】2022年度の環境活動の目標

1. 環境経営方針に沿った取り組みの実施

2021年度の「環境経営方針」を継続する事とし、各項目の取組内容を一部見直し致しました。

(1) 我々が関わる自動車産業は、環境への負荷が大きいとの認識に立ち、本業にリンクした具体的な環境活動として、アイサイト装着車販売、エコカー販売、車検カバー率、点検在庫率、エコタイヤ販売、などを推進します。

・引き続きアイサイト・スマートアシスト装着車・HV車の拡販、点検在庫、エコタイヤの販売に取組み、環境負荷の低減につなげてまいります。

アイサイト・スマートアシスト装着車登録比率(新車)

*集計:北海道スバル(株)

年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
総登録台数	6432	5309	4790	3829	3314
アイサイト、スマアシ有登録台数	5743	4826	4408	3735	3171
比率	89.3%	90.9%	92.0%	97.5%	95.7%

ハイブリッド車登録比率(新車登録車) (SBR中長期目標 2030年までに販売台数の40%以上をEV、HVにする)

*集計:北海道スバル(株)

年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
登録総台数(登録車、軽自動車)	6432	5309	4790	3829	3314
登録台数(登録車のみ)	5329	4477	3902	3192	2803
HV車登録台数	1	626	1087	1077	1025
HV比率登録車台数(登録車のみ)	0.02%	14.0%	27.9%	33.7%	36.6%
HV比率登録総台数(登録車、軽自動車)	0.016%	11.8%	22.7%	28.1%	30.9%

点検バック在庫率(SCRUMベース 当月該当一当月入庫分)

*集計:北海道スバル(株)

年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
車検	94.6%	93.9%	94.2%	97.1%	96.7%
12検	79.9%	76.5%	73.2%	75.2%	75.0%
新商品	65.4%	62.2%	58.1%	60.8%	61.1%
合計	73.8%	70.2%	66.8%	69.6%	69.2%

(2) 店舗の建て替えやリニューアルも積極的に行い、お客様が来店しやすい環境づくり、従業員が働きやすい店舗づくりを行うと同時に、環境配慮商品とサービスの充実を通じて、経営理念「安心と愉しさを社会に提供する」の実現を目指します。

・札幌市内の老朽化した店舗の建替えは一通り完了しましたが、お客様に喜んで頂けるお店作りや店舗スタッフが働きやすい店舗を目指し、今後も計画的に店舗のリニューアルを進めてまいります。

(3) 行政、ステークホルダー等からの環境関連の法規制・規則・協定などを順守します。

・環境関連法規の遵守

対象となる法律は引き続き遵守します。また新たな法律が制定実施されていないかについての確認も引き続き継続します。

(4) 廃棄物の削減及びリサイクルを促進し、省資源・省エネルギー化を図り、またそれら環境に配慮した事業活動に取り組むことで地球温暖化、資源枯渇、環境汚染の低減及び環境保護に努めます。

・ガソリン、軽油等燃料使用量の削減

従来の営業スタイルから来店型店舗への転換が定着し一部の店舗では納車・引取の有料化などの取り組みもあり、ガソリン消費量が減少しました。また昨年からは、通勤など営業活動以外のガソリン使用量を正確に把握できるようになっており、これまで通り燃料の使用量について無駄がないかモニタリングを継続して行きます。

・リサイクルの推進

事業活動に伴う廃棄物をできるだけリサイクルする事で廃棄物を減らすよう取り組みます。現在、交換したオイルフィルターは環境開発工業(株)へ収集・処分を委託しておりますが、環境開発工業(株)では回収したオイルフィルターを金属くず・廃プラスチックに分解し廃油も含めそのほとんどをリサイクルしています。このような技術を持った処理業者へ委託する事でリサイクルが可能になり、環境負荷の低減に繋がると考えられます。

(5) 当社の事業活動を継続する上で、発生しうる納期遅延・クレームに起因するエネルギーロスの削減を推進します。

・技術力向上の取組

ラーニングマネジメントシステムの自己学習の実現に向けた体制作り、チーフメカ・B Pセンター長を対象とした「教える力」を強化するための研修を企画。店舗メカニックのスキルアップに繋げ、誤診断や作業ミス・部品の検索ミスの防止に努め、不動部品・廃却部品の発生を抑制します。

・店舗内のヒヤリハット箇所の洗い出し

駐車場やサービス工場内で怪我や事故に繋がる場所がないか、見直し必要な処置を講じます。安全な職場とし効率の向上に繋がります。

(6) 全従業員に対し、この環境経営方針を周知し、環境意識向上のため、啓蒙活動を継続的に行います。

・新しい方針を掲示し、環境管理責任者より、各エリア責任者各部・各店舗推進責任者を中心に会議やミーティングなどを通して啓蒙活動を継続的に行います。

2. 数値目標

上記 1 項の“環境経営方針に沿った取組み”と共に、2021 年度の各項目の実績に対しそれぞれ 1 %削減を数値目標とし取組みます。

項目		単位	2022 年度目標	2023 年度目標	2024 年度目標
電気使用量		kWh	2,195,145	前年度実績の 1 %減	前年度実績の 1 %減
燃料	ガソリン	L	368,468		
	灯油	L	169,976		
	軽油	L	120,347		
	LPG	kg	55,512		
	都市ガス	m ³	467,952		
水使用量		m ³	17,900		
廃棄物／一廃・産廃		t			
紙（コピー紙）使用量		kg			
二酸化炭素排出量		kg-CO2	4,266,742		

①電気使用量削減、②燃料使用量削減、③水使用量削減、④廃棄物量削減、⑤紙使用量削減

3. 各店舗の取組み

各店舗における具体的な取組み内容は以下の通りです。

本 社	
本 社	<ul style="list-style-type: none"> ・時間管理を適正に行い時間外労働の削減に努める ・日々の清掃活動を周辺も含めて実施 ・昼休みの消灯

営業第 2 部（道央）エリア	
札幌西店 B P 本社	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ「なにになに～っぱなし！をなくそう！」の活動 ・電気、水道、灯油の節約 ・ガソリンの節約 ・残業時間の短縮（工程管理と行動の見直し）
白石店・法人営業 課・B P 白石	<ul style="list-style-type: none"> ・水道光熱費削減意識の醸成 ・ガソリン節約
月寒店	<ul style="list-style-type: none"> ・営業費削減活動を実施（2 %削減） ・電気、水道の出しっぱなしを撲滅する。 ・燃料費削減（燃料費高騰によりアイドリング時間を減らします。） ・無償修理の減少（同じ過ちを繰り返さない、サービススキルアップをする）

札幌北店	<ul style="list-style-type: none"> ・電気使用の見直しを中心にし、スタッフ全員で光熱費削減 ・CA 営業ガソリン、サービス代車ガソリンの使用量管理の徹底。 ・必要残業は別としてメリハリのある労働時間でモチベーション低減を抑制
札幌南店	<ul style="list-style-type: none"> ・前年に対しての1%削減を目指し、意識を持ち業務に当たる ・昨年度の店舗審査準備の際に、知り得た活動意義や達成までのアプローチをスタッフに共有し、活動意義等を共有する
羊ヶ丘通清田店	<ul style="list-style-type: none"> ・アイサイト搭載のスバル車を販売し、事故を無くし修理部品の減少に。 ・点検パック付保率を上げ、修理・故障を減らし、修理部品の減少に。 ・代車のガソリン満タン貸出を継続実施し、ガソリン排出を削減。 ・エコカー販売を促進し環境負荷を減らす。
部品センター	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな修理部品やメンテナンスの部品交換を少しでも削減するために定期点検実施するために、点検パック付保率を上げる ・事故を防ぎ修理部品を削減するために、アイサイト搭載車輛を拡販する ・余計な交換部品を増やさないために、日々の作業を確実に行き、無償整備を減らす ・部品差異廃却棚卸誤差誤出荷をなくし、業務の効率化をする ・物流のやり方の変更
カースポット 羊ヶ丘通	<ul style="list-style-type: none"> ・商品化センター、Web ギャラリーを最大活用し、無駄な残業を抑制する時間管理、光熱費抑制を図る。 ・FinePrint やメールを活用し、備品の消費を抑制する。 ・店舗内での情報を共有し、無駄な外出を控え、燃料費を抑制する。
厚別店	<ul style="list-style-type: none"> ・一般廃棄物において容積をしっかりと利用し廃棄。 ・残業の削減により光熱費の削減とスタッフのモチベーションアップを図る。
カースポット厚別	<ul style="list-style-type: none"> ・こまめな空調・電気などの管理調整消灯作業を行う ・効率の悪いものから脱却し古いものから新しいものへ管理体制の構築 ・5 Sの継続及び無駄の省略の徹底
札幌東店	<ul style="list-style-type: none"> ・水道光熱費やガソリン代の削減 ・節水、こまめに電気を消す、暖房の設定温度の管理などすぐに見えるポイントを削減していく
新千歳店 カースポット新千歳 新千歳 P D I	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの分別を徹底し、資源を有効活用する。 ・使わない電気は小まめに消し、資源の無駄遣いを防ぐと共に経費を削減することで利益を出しやすくする。
小樽店	<ul style="list-style-type: none"> ・残業時間の削減 ・5 S 活動 ・ガソリン使用量管理
岩見沢店	<ul style="list-style-type: none"> ・「岩見沢店を良くするのは岩見沢店スタッフしかいない」をテーマとし、長く続く店舗風土を理由（言い訳）にせず、お客様・スタッフ双方にとって、居心地のよい・働きやすい環境づくりを進めるため、店舗ルールの確認（見直し）・運用・チェック・改善の PDCA サイクルを回す。 ・ルールの簡略化(周知) ・ルールの運用(定着) ・ルールの変更(確認) ・ルールの再定義(より良い働き方) ・新車販売や整備ミス撲滅が、結果として環境負荷低減に繋がるという理解を深め、法令に基づくセルフチェック・ダブルチェックを徹底する。

G-PARK 札幌	<ul style="list-style-type: none"> ・無駄な電気・紙・燃料を削減する、各人が経費を意識し無駄がないかを考えながら業務にあたり経費削減に努める。 ・店舗内の外出情報共有を密にし、無駄な外出を控え燃料費の削減に努める。 ・業務の効率化を図り残業の削減。必要な残業と、そうではない残業を明確にして効率化を図る。しっかり残業の内容を把握して残業を減らし、社員エンゲージメント向上にも繋げる。
-----------	---

営業第一部（道北）エリア	
旭川北彩都店	<ul style="list-style-type: none"> ・節電・節水に個々がしっかり取り組む ・備品の大量発注の禁止、一つ一つ大切に使い切る ・作業の平準化に取り組み、残業削減、電気代の削減に努める ・無償修理を減らす。ダブルチェックの徹底、SE 勉強会の定期開催で個々のレベルアップを図る ・代車・試乗車のガソリンは小まめに少量給油で節約に努める ・C Aの燃料代を節約するべく、エコドライブを推進する
名寄店	<ul style="list-style-type: none"> ・工場洗車時の水道の出っぱなし等が無いよう気遣う ・無駄な電気照明、タイマーを季節により細かい調整、昼休みの工場内消灯 ・油脂庫、部品庫の管理徹底により在庫量の低減 ・設備等（電気照明、セキュリティ、消防設備）の定期点検 ・サーバーの活用をより広げ共有することにより、印刷物の低減 ・法定速度を守り、急加速等を無くし、サービス代車の燃料代の節約に努める
G-PARK 旭川	<ul style="list-style-type: none"> ・入庫台数の確保、作業割り付けを行い残業の削減 ・工場内外の清掃の徹底
北見店	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の冷暖房を細かく調整して環境負荷の低減を図る ・訪問活動なども燃費を意識した運転を心掛けて、環境負荷、経費節減の実施 ・節水節電に努め、コピー用紙の裏紙を使い紙使用量の削減 ・効率的な入庫計画を立てて無駄な残業を抑制する
滝川店	<ul style="list-style-type: none"> ・残業時間短縮や使用していない場所の電気を消す。ショールーム内や休憩室など適正な冷暖房管理 ・複数ページ、両面印刷、回覧、ipad の利用による紙の使用を抑える ・水道についても車に応じた洗車内容 出っぱなしな使い方をしない ・余裕を持った計画立てによる安全運転をする・急の付く操作をしない運転や無駄な荷物は積まない。 ・社内情報共有を行い自動車使用頻度を減らす ・自動車販売業に携わる者として安全運転の模範になることを意識する。

営業第三部（道南）エリア	
室蘭店	<ul style="list-style-type: none"> ・各種設備の性能・能力を把握し、環境負荷に与える影響を把握する ・エコアクション推進のため、各種エネルギー毎に担当者を決める 店長：電力、ガス、灯油等管理、消防設備点検、再修理、無償修理の削減 工場長：油脂類、廃棄物、排水、汚泥等の産業廃棄物管理 検査員：コンプレッサー点検
苫小牧店	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー使用量の削減（ガソリン、軽油、灯油など） ・水の使用量削減（洗車、清掃時の節水） ・廃棄物の適正な分別 ・紙（コピー用紙）使用量の削減 ・業務の効率化（再整備、時間外の削減） ・急ぎでない場合の高速使用の軽減
函館北浜店 カースポット北浜 BP センター北浜	<ul style="list-style-type: none"> ・電力負荷の作動タイミングを分散しピークを低減する ・【社用車燃料使用量検証】デモカー、代車、キャリアカーの燃料使用量精査 ・【照明・空調の効率的利用】残業削減、照明間引き、暖房間欠運転等の空調管理 ・【建物設備保守管理】必要個所の修繕（雨漏れ等） ・【事務用品、消耗品の削減】複合機削減、品目抑制、申請内容精査
函館神山店	<ul style="list-style-type: none"> ・二酸化炭素排出量の削減 <ul style="list-style-type: none"> ①ノーマル残業に取り組み夜間照明や空調等のエネルギー削減に努める ・廃棄物排出量の削減 <ul style="list-style-type: none"> ①リビルト部品、リサイクル部品の活用 ②資料のペーパーレス化（ファインプリントや iPad の使用） ・総排水量の削減 <ul style="list-style-type: none"> ①節水呼びかけの張り紙で意識させる ②洗車の工程見直し（効率化）こまめに止水

【9】 代表者による総括

エコアクションの基本的な取組である“電気やガソリン、廃棄物の削減”は大切な事であるが、環境関連法規の遵守が出来ているかどうかについても社会メンバーの一員として常に気を配って行く必要がある。“電気やガソリン、廃棄物の削減”をベースに実行していかねばならない。またこれらを“全社員で取り組んでいる”という意識の醸成を図って行きたい。それはお客様に対し、社員一人一人が環境問題に“どのように取り組んでいるか”をきちんと説明できることが大事だからである。また日常の業務が環境にどのように結びついていくか意識する事も大切である。このように環境関連法規の遵守が出来ているかどうか振り返るためにも、日常の業務と環境への関わりを把握するツールとしてエコアクションの取組を活用して欲しい。